

○計画期間:平成27年4月～令和2年3月(5年0月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成30年度終了時点(平成31年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市は、平成27年3月27日に第2期目となる中心市街地活性化基本計画の認定を受け、「人々が行き交いまちの鼓動が聞こえる城下（まち）」を基本テーマに、「行きたい城下（まち）」「にぎわう城下（まち）」「住みたい城下（まち）」「市民が主役の城下（まち）」の4つの基本方針のもと、同計画に掲げる43事業に取り組んでいる。

本市の中心市街地をめぐる現状としては、登録から25周年を迎えた世界文化遺産・姫路城は平成の大修理を経たグランドオープンから4年が経過し、平成30年度の年間来城者数は、目標としている150万人を上回る約159万人となり、改修前の約110万人から大幅に増加している。さらに、海外旅行サイトの日本の城ランキングで3年連続1位を獲得するなど、外国人観光客の注目度が非常に高く、過去最高となる約38万人もの外国人観光客が姫路城を訪れており、本市の観光客誘致に大きな役割を果たしている。姫路駅周辺では、姫路の玄関口となる姫路駅北駅前広場が市民や観光客の憩いと交流の場として定着し、イベントをはじめ多様な活動が行われている。平成31年3月には姫路駅南駅前広場の整備が完了し、中心市街地の南側にも高質な歩行者空間が整備され、更なる中心市街地の魅力向上につながっている。キャストィ21コアゾーン整備事業についても、すべての施設が開業し、新たな人の流れを呼び込んでいる。コアゾーン東側のイベントゾーンでも文化コンベンション施設の建設工事が始まるなど、ハード整備事業は着実に進捗している。

こうした街なかの活性化に向けた明るい兆しが見受けられる一方で、商店街エリアでは、街なかの中心に位置する百貨店が平成30年2月に閉店したことにより、活気がなくなったという声もきかれる。そのような中で、商工会議所や商店街、行政が協働し、閉店後の当該店舗において、シャッター部分への大型写真パネルの展示や、店舗跡を一部活用し交流ステーションを設置するなど、店舗の跡地利用が決まるまでの間、店舗周辺の賑わいと活気を取り戻すよう取り組みを行っている。

中心市街地の現状として、ハード整備が順調に進捗する一方、商店街をはじめとする中心市街地を取り巻く環境は、依然として厳しい状況となっている。姫路駅周辺の賑わいや人の流れを街なか全体へ波及させるべく、より一層市民や民間事業者と連携を深めるとともに、民間を主体とする持続可能なまちづくりの推進とソフト事業の充実を図り、街なかの賑わいと活力の増大を目指す。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(基準日：毎年度1月1日)

(中心市街地 区域)	平成26年度 (計画前年度)	平成27年度 (1年目)	平成28年度 (2年目)	平成29年度 (3年目)	平成30年度 (4年目)	平成31年度 (5年目)
人口	8,904人	9,079人	9,262人	9,912人	10,401人	
人口増減数	226人	175人	183人	650人	489人	
自然増減数	該当区域単位の 集計情報なし	該当区域単位の 集計情報なし	該当区域単位の 集計情報なし	該当区域単位の 集計情報なし	該当区域単位の 集計情報なし	
社会増減数	該当区域単位の 集計情報なし	該当区域単位の 集計情報なし	該当区域単位の 集計情報なし	該当区域単位の 集計情報なし	該当区域単位の 集計情報なし	
転入者数	該当区域単位の 集計情報なし	該当区域単位の 集計情報なし	該当区域単位の 集計情報なし	該当区域単位の 集計情報なし	該当区域単位の 集計情報なし	

2. 平成30年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

姫路駅周辺整備事業やキャスティ 21 コアゾーン整備事業を始めとした主要事業により、姫路駅周辺エリアにおける商業施設のオープンや、歩行者空間等の環境整備が進展し街なかの魅力が向上している点は一定の評価ができる。しかし一方では、駅周辺の来街者を十分に商店街などに誘引できていないなどの課題も発生しており、依然として中心市街地を取り巻く環境は厳しいと認識している。

今後は、駅周辺から街なかへの人の流れの創出や、駅前広場や大手前通りなど公共空間の利活用など、街なかの賑わいづくりをより一層推し進めてほしい。

そのためにも、街なかで様々な活動をする市民・団体等がより一層連携し、一体となって事業展開をすることができる体制の構築や、民間事業者と協働しながらの圏域ブランド形成など、官民一体となって取り組む必要がある。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
新たな魅力の創出と移動環境の向上による来訪者数の増加	歩行者・自転車通行量	63,639 人/日 (H22～25 平均値)	82,000 人/日 (H31 年度)	70,118 人/日 (H30 年度)	B	②	②
新陳代謝の促進による街なか(商店街)の活性化	空き店舗数	36 店舗 (H25 年度)	28 店舗 (H31 年度)	31 店舗 (H30 年度)	B	②	①
多世代が快適・便利に暮らせる居住環境の向上	居住者数	8,797 人 (H25 年度)	8,894 人 (H31 年度)	10,520 人 (H30 年度)	A	①	①
市民が躍動できる仕組み・体制の構築	公共空間利活用のルールのもとで行われるイベント実施日数	286 日/年 (H25.9～H26.8)	321 日/年 (H31 年度)	468 日/年 (H30 年度)	A	①	①
(補完指標)	中心市街地に対する市民の評価	42.7% (H26年度)	50.0% (H31 年度)	50.3% (中間評価:H29年度のみ実施)	A	①	①

< 基準値からの改善状況 >

A：目標達成、B：基準値達成、C：基準値未達成

< 取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類 >

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「歩行者・自転車通行量」については、姫路駅周辺の新しい商業施設の開店に伴う集客効果のほか、コミュニティサイクル事業、姫路駅北駅前広場活用事業などの主要事業が順調に進捗していることもあり、基準値からは改善している。しかし、姫路城のランドオープンによる集客効果が落ち着きつつあるほか、キャスティ 21 コアゾーン等の整備完了後に増加している新たな来街者の商店街への誘客不足などもあり、依然として目標値との差は大きい。

また、計画記載の主要事業についても一定の目途がつきつつあることから、今後、大幅な改善は見込めない。

「空き店舗数」については、中心市街地商店街内の空き店舗への出店者に対する家賃

補助等をはじめ、商店街以外での街なか創業者への支援制度による商店街の魅力づくりに向けた取組みや、商店街へのヒアリングによる実態把握など、情報共有を強化することで空き店舗数は改善した。しかし、新規出店数は堅調であるが、退店や住居への用途転用など厳しい状況は続いている。今後は、主要事業や商店街振興施策を着実に実施するとともに商店街との情報共有を更に密にし、引き続き目標達成を目指していく。

「居住者数」については、姫路駅周辺土地区画整理事業のほか、キャスティ21コアゾーン整備事業等の姫路駅周辺整備事業の進捗により、街なか居住の魅力が向上することで、引き続き民間マンションの建設が進むなど、基準値と比較して、大幅に増加し、目標値を達成している。

「公共空間利活用のルールのもとで行われるイベント実施日数」については、姫路駅北駅前広場の利活用が定着し、週末だけではなく平日においても、多彩なイベントが行われるなど、依然として高い稼働率で広場の活用が図られており、基準値と比較して、大幅に増加し、目標値を達成している。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

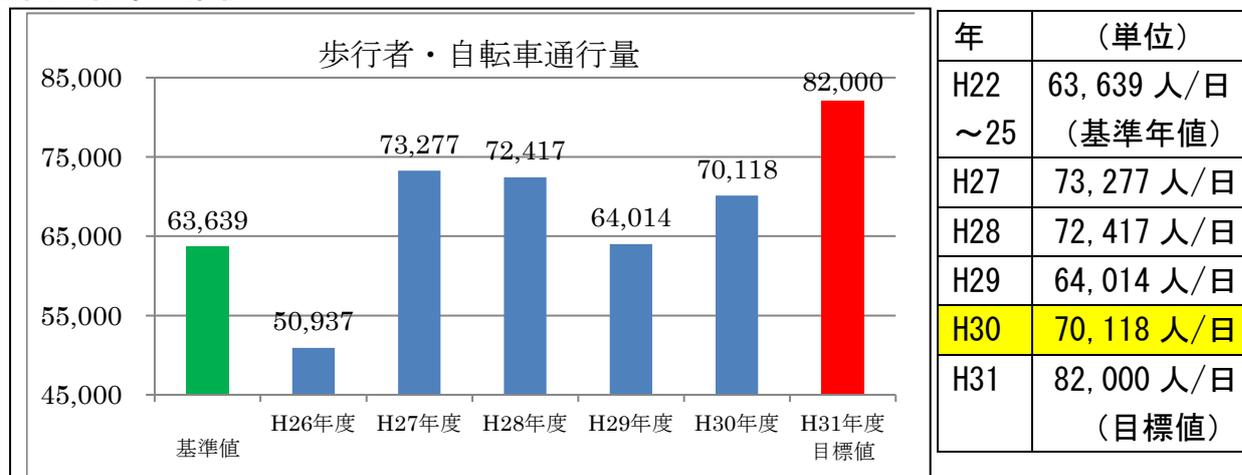
「空き店舗数」(前回②)については、中心市街地商店街空き店舗対策事業、街なか起業家支援事業などの取組みにより、創業者の支援を継続して行っている。昨年度数値が悪化したことを踏まえ、より商店街の状況を反映した施策展開をするべく商店街に関する各種アンケートを実施するとともに、来街者の意見聴取を行った。結果を商店街と情報共有するとともに、空き店舗の状況についても関係者へのヒアリングを行った。また、従来からの各種支援件数も堅調であり、平成30年度は、空き店舗数が減少している。平成31年度についても、創業相談が多数寄せられており、引き続き中心市街地商店街等への新規出店が期待されることから、①と評価した。

今後も、現在実施中の各種事業と合わせて、商店街との情報共有を密にし、引き続き空き店舗数の改善に向けて取り組んでいきたい。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

「歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P72～P79 参照

●調査結果の推移



※調査月：平成30年4月29日実施、5月取りまとめ

※調査主体：姫路市

※調査対象：中心市街地内7地点

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. キャスティ21コアゾーン（Aブロック）整備事業（マルイト株）

事業実施期間	平成26年度～平成29年度【済】
事業概要	国際都市・姫路の魅力をより高める、上質でアメニティ溢れる都市型ホテルを整備する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成28年8月に着工したホテルモントレ姫路は、平成30年3月23日のグランドオープン以降、姫路駅前の主要施設として、国内外からの観光客の受皿となっているほか、宿泊以外にも結婚式場や、コンベンション機能も有しており、様々な用途で活用され、来街者増加へ寄与している。 [歩行者等通行量]（調査地点：ホテルモントレ姫路・南） 4,463人（H29.4.29）→5,681人（H30.4.29）
事業の今後について	整備事業としては、事業完了している。今後は、当該施設が周辺商業施設や商店街と連携し、中心市街地の活性化に向けた取組みが行えるよう事業者と協力していく。

②. キャスティ21コアゾーン（Bブロック）整備事業（エミス株）

事業実施期間	平成26年度～平成27年度【済】
事業概要	シネマコンプレックスを核とした商業施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	・商店街まちづくり事業（中心市街地活性化事業） （経済産業省）平成27年度 ・特定民間中心市街地経済活力向上事業計画の経済産業大臣認定 （経済産業省）平成27年度 ・株式会社日本政策金融公庫による低利融資 （経済産業省）平成27年度 ・当該事業の用に供する建築物及び構築物を取得した際の割増償却制度 （経済産業省）平成27～28年度 ・当該事業の用に供する不動産の取得又は建物の建築をした際の登録免許税の軽減 （経済産業省）平成27～28年度
事業効果及び進捗状況	平成27年7月24日の商業施設（テラッソ姫路）オープン以降、通行量が増加するなど、着実な集客効果が認められる。また、平成30年度には、キャスティ21エントランスゾーンの駅ビル商業施設（ピオレ姫路）からコアゾーンの3施設をつなぐ歩行者デッキが

	整備され、歩行者動線が新たに生まれたことにより、更なるエリアの活性化につながっている。 [歩行者等通行量]（調査地点：テラッソ姫路北西） 10,446人（H29.4.29）→10,994人（H30.4.29）
事業の今後について	整備事業としては、事業完了しており、駅周辺の集客施設として大きな役割を果たしている。また、周辺の商業施設や商店街と連携した取り組みも行っており、引き続き中心市街地の活性化に大きく寄与していくことが期待される。

③. キャスティ 21 コアゾーン（Cブロック）整備事業（学神戸滋慶学園）

事業実施期間	平成 26 年度～平成 30 年度【済】
事業概要	医療系専門学校などを整備する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成 29 年 7 月から順次フィットネスジムや、医療専門学校（姫路医療専門学校）が開設され、平成 30 年 9 月からは、健康生きがい開発棟（高齢者住宅・保育所・クリニック）も供用が開始され、全ての整備事業が完了した。通行量調査は 4 月に実施するため、現段階で定量的な効果の確認はできていないが、当該施設の供用開始により、これまで人の流れがなかったエリアに人が流れており、確実に中心市街地の賑わいにつながっている。
事業の今後について	整備事業としては、事業完了している。今後は、当該専門学校の学生や施設利用者の増加により、中心市街地の賑わい創出への効果が期待される。

④. コミュニティサイクル事業（姫路市）

事業実施期間	平成 28 年度～平成 31 年度【実施中】
事業概要	都心部で、自由に乗り降りできるコミュニティサイクル(姫ちやり)を導入する。
国の支援措置名及び支援期間	・社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（姫路駅周辺地区（第 2 期））と一体の効果促進事業）（国土交通省）平成 28～31 年度
事業効果及び進捗状況	平成 26 年度からの社会実験を経て、平成 28 年 7 月 1 日から本格運用を開始した同事業では、平成 30 年度末時点で 20 箇所のサイクルポートが稼働している。平成 30 年度は、69,883 人（110,893 回）が利用した。街なかの回遊性と周辺エリアへの利便性の向上を目指し、引き続き同事業に取り組んでいく。
事業の今後について	平成 30 年 9 月から定期利用に 3 か月、6 か月の区分を新たに設け、利用者の利便性向上を図っている。引き続き、中心市街地の活性化に大きく寄与するよう、事業を継続していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

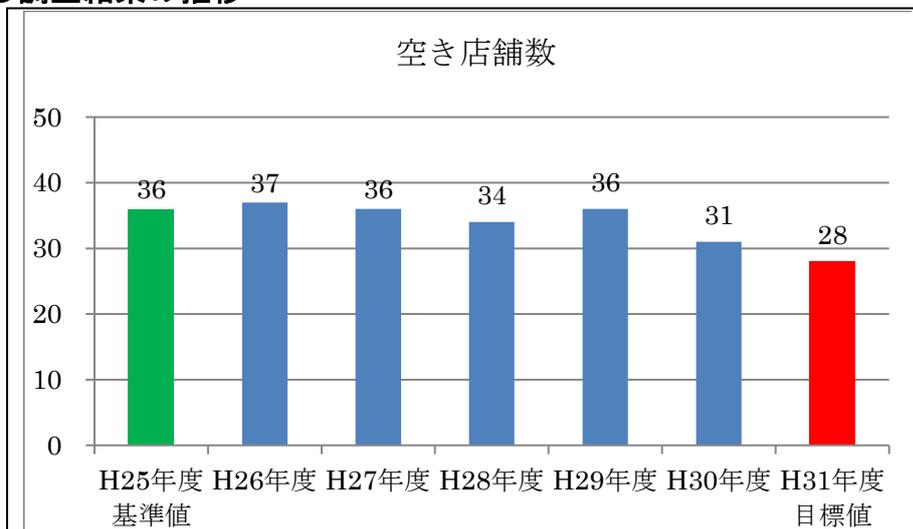
平成 30 年度の数値は、前年と比較して大きく増加している。要因としては、昨年度は調査当日の悪天候により、屋外の調査地点の数値が減少したためと考えられ、平成 30 年度は天候に恵まれたことで数値が回復した。

しかし、依然目標値との差は大きく、平成の大修理を終えた姫路城を訪れる観光客数も落ち着きがみられ、また計画記載の主要事業についても一定の目途がつつあることから、大幅な改善は見込めない状況である。

その一方で、駅周辺商業施設の集客は伸びており、今後は、これらの商業施設から、来街者を商店街などへ誘引し、回遊性を高めていくことが必要であると考えている。平成 30 年 9 月に再整備が完了した大手前通り南工区（十二所前線以北～国道 2 号線）の歩道空間を利活用した賑わい創出や、平成 30 年度から整備をはじめた商店街を中心とした公衆無線 LAN の導入など、新たな取り組みや事業拡充などにより数値目標の達成に向け取り組みをすすめている。特に歩道空間の利活用にあたっては、地元や民間団体と協力しながら官民一体となって事業を進めており、将来ビジョンの策定や、公共空間利活用マネジメントの検討などを実施していく予定である。こうした官民協働の取り組みを通じて大手前通りの魅力向上を目指しながら、今後は行政ではなく民間が主体となるまちづくりの仕組みづくりを推し進めていく。

「空き店舗数」※目標設定の考え方基本計画 P80～P82 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H25	36 店舗 (基準年値)
H27	36 店舗
H28	34 店舗
H29	36 店舗
H30	31 店舗
H31	28 店舗 (目標値)

※調査方法：現地調査（毎年 3 月末）

※調査月：平成 31 年 3 月末実施、4 月取りまとめ

※調査主体：姫路市

※調査対象：中心市街地内 15 商店街

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

- ①. 中心市街地商店街空き店舗対策事業（姫路市、姫路商工会議所、商店街等）

事業実施期間	平成 13 年度～平成 31 年度【実施中】
事業概要	中心市街地商店街内の空き店舗への出店者に対し、家賃補助等を行う。また、外部関係者と連携し、モデル商店街でのテナントミックスやチャレンジショップ実現に向けた事業を展開する。
国の支援措置名及び支援期間	・中心市街地活性化ソフト事業（総務省）平成 27～31 年度
事業効果及び進捗状況	創業者に対する支援を引き続き実施している。平成 30 年度は新規出店数が堅調で、退店も少なかったことから空き店舗数は減少した。 [内装設備費補助店舗数] 3 店（H29 年度）→8 店（H30 年度） [家賃補助店舗数]（最長 2 年間） 13 店（H29 年度末時点）→16 店（H30 年度末時点） ※前年度からの継続支援店舗を含む
事業の今後について	制度利用件数は堅調であり、多くの意欲的な創業希望者が、中心市街地での出店を目指していることは、中心市街地に魅力があることを示している。一方で、支援期間が終わると退店してしまう事例もあるため、創業後のフォローなども含め、引き続き商工会議所と連携し、目標値の達成を目指していく。

②. 街なか起業家支援事業（姫路市）

事業実施期間	平成 27 年度～平成 31 年度【実施中】
事業概要	街なかにおける起業家に対する支援事業を展開する。
国の支援措置名及び支援期間	・中心市街地活性化ソフト事業（総務省）平成 27～31 年度
事業効果及び進捗状況	中心市街地商店街以外で創業等により新たに店舗を出店する方に対し、内装工事費等の一部を助成する「まちなか創業支援制度」を継続して実施。平成 30 年度は、創業者 4 名に対し支援するなど、今後の、街なかの魅力向上へ向け取組みを進めている。
事業の今後について	中心市街地の商店街以外のエリアでは、家賃が比較的安く、若者が創業にチャレンジしやすいエリアもあり、そのようなエリアで空き店舗のリノベーションによる出店を検討している事例もある。今後は、そうした新しい試みにも対応できるよう支援内容を検討していきたい。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「中心市街地商店街空き店舗対策事業」や「まちなか創業支援制度」により、商店街だけでなく、それ以外の地域での街なか創業者に対しても支援するなど、商店街の活性化や街なかの魅力づくりに向けた取組みを行っている。昨年度は、空き店舗数が基準値まで後退していたが、今年度は、主要事業を活用した支援件数が堅調であり、空き店舗数

は改善した。平成 31 年度についても、創業相談が多数寄せられており、引き続き中心市街地商店街等への新規出店が期待されている。しかし、長年にわたり空き店舗のままで、テナントが入る様子のない店舗などもあり、こうした店舗の状況などを商店街と情報共有するとともに、今後のフォローや、ニーズに合った支援策の検討を進め、空き店舗数の改善に引き続き取り組んでいく。

また、本市の大学連携事業のなかで地元大学の研究者が、位置情報システムと商店街地図とを組み合わせた新たなスマートフォン向けアプリの開発を進めており、大学と商店街の新たなつながりによる商店街の更なる魅力向上が期待される。

こうした新しい取り組みが進む一方で、商店街の空き店舗がマンションや駐車場に建て替えられる事例も出てきている。街なか居住の進展による商店街利用者の増加や来街者の利便性向上など良い面もあるが、商店街としての賑わいに影響が出ないように注視していく必要がある。

今後も、「新陳代謝の促進による街なか（商店街）の活性化」の目標のもと、計画に記載の事業だけではなく、より一層、各種関係団体との連携を図りながら、若くてやる気あふれる起業家や繁盛店づくりを引き続き支援し、各店舗だけでなく商店街全体の魅力を高め、空き店舗数の改善に向けて取り組んでいきたい。

「居住者数」※目標設定の考え方基本計画 P83～P85 参照

●調査結果の推移



※調査方法：中心市街地内の住民基本台帳登録人口（毎年 3 月末）

※調査月：平成 31 年 3 月末実施、5 月とりまとめ

※調査主体：姫路市

※調査対象：中心市街地内居住者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 駅南土地区画整理事業（姫路駅南西地区）（土地区画整理事業）（姫路市）

事業実施期間	平成 19 年度～平成 33 年度【実施中】
事業概要	姫路駅南西部の連立事業による旧鉄道用地等を都心部にふさわし

	い計画的な市街地として再生することを目的に、都市基盤施設の整備改善を行い、宅地の利用増進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	・社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（姫路駅周辺地区（第2期）））（国土交通省）平成27～31年度
事業効果及び進捗状況	平成30年度は、1号公園予定地内の支障物件の移転および区画道路の築造工事を順調に進めてきた。平成31年度は引き続き支障物件の移転交渉を進めながら、順次区画道路の築造等を進めていく。当該事業とともに、他の姫路駅周辺整備事業等により、事業エリア周辺で、民間マンションの建設が引き続き進むなど、街なか居住人口の増加が図られている。
事業の今後について	支障物件の移転とともに区画道路の築造工事及び公園の整備工事を実施する。

②. 姫路駅周辺土地区画整理事業（姫路市）

事業実施期間	平成元年度～平成33年度【実施中】
事業概要	JR 姫路駅を中心とする南北市街地の一体化を図る交通体系の確保、都市計画道路、公園、河川等の公共施設の整備改善を行い、新都心拠点としてふさわしい街区を形成し、多様な機能立地を図る。
国の支援措置名及び支援期間	・社会資本整備総合交付金（道路事業（街路））（国土交通省）平成27～31年度
事業効果及び進捗状況	平成30年度は、当該事業エリア東部において、内環状東線四車線化（平成32年度予定）に向けて、仮換地指定の変更などにより支障物件の移転を順調に進めてきた。平成31年度は、支障物件の移転交渉を引き続き進めるとともに、事業完了に向け、関連道路の築造工事等を進める。また、当該事業の進行により、エリア内に民間マンションの建設が引き続き進むなど、街なか居住人口の増加が図られている。
事業の今後について	内環状東線の四車線化を進めるとともに、令和3年秋開業予定の文化コンベンションセンター周辺の道路築造工事を行い、アクセス道路を整備する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

駅南土地区画整理事業や姫路駅周辺土地区画整理事業の他、キャスティ21コアゾーン整備事業等により、中心市街地の魅力が向上し、引き続きエリア内で民間マンションの建設が進むなど、主要事業の進捗にあわせて、居住人口は順調に増加しており、目標達成は可能と思われる。また、キャスティ21イベントゾーンに、新たに整備される姫路市文化コンベンションセンターや県立はりま姫路総合医療センター（仮称）といった施設は、更に中心市街地の魅力を向上させ、新たな居住者を街なかに呼び込むものと考えている。

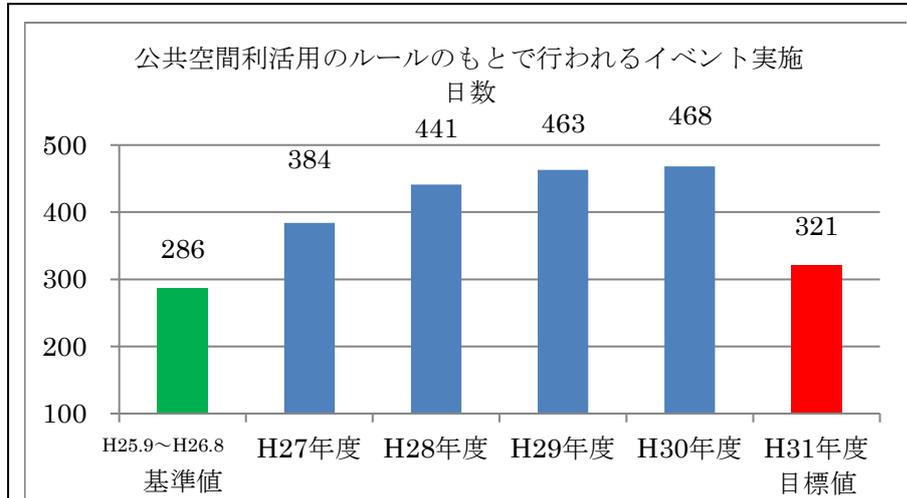
今後も、商店街をはじめ、各商業施設の魅力を高め、賑わいを創出するとともに、街な

かを回遊してもらう取組みを行うことで、中心市街地全体に効果を波及させ、さらに実績を伸ばしていきたい。

「公共空間利活用のルールのもとで行われるイベント実施日数」

※目標設定の考え方基本計画 P86～P88 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H25.9 ~ H26.8	286 日/年 (基準年 値)
H27	384 日/年
H28	441 日/年
H29	463 日/年
H30	468 日/年
H31	321 日/年 (目標値)

※調査方法：施設管理者調査（報告）等（毎年3月末）

※調査月：平成31年3月末実施、4月取りまとめ

※調査主体：姫路市

※調査対象：姫路駅北にぎわい交流広場（姫路駅北駅前広場）、大手前公園、
中心市街地内15商店街
（各エリアで行われるイベント実施日数を足し合わせる）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 姫路駅北駅前広場活用事業（姫路市、市民団体、商店街等）

事業実施期間	平成27年度～平成31年度【実施中】
事業概要	市民による姫路駅北駅前広場（姫路駅北にぎわい交流広場）の積極的な活用（継続的なイベントの開催）を促進することで、街なかへの集客力・回遊性の向上につなげる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	駅前広場が市民・観光客の憩いとくつろぎの場であるとともに、イベント等で活用できる空間であることが広く周知され定着し、年間を通じて多彩なイベントが行われ、依然として高い稼働率で広場の活用が図られている。（平成29年度317日→平成30年度324日）
事業の今後について	多彩なイベントに活用されており、休日などは、ほぼ予約で埋まっている状況である。今後、更なる利用促進のために、運用基準の改

	善、利活用エリアの拡充も視野に入れなければならない。そのため、平成30年度には、従来、利活用エリアではなかった空間を試行的に利活用エリアとして開放したところ、利用実績も好調であったため、平成31年度からは正式に利活用エリアとした。今後も引き続き利用者の利便性の向上に努めるとともに、駅前を中心とした賑わいの創出につなげていく。
--	---

②. 商店街にぎわい創出事業（姫路市、商店街、民間等）

事業実施期間	平成27年度～平成31年度【実施中】
事業概要	商店街等が、商店街の活性化のために実施する賑わい創出事業を展開する。
国の支援措置名及び支援期間	・ 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）平成27～31年度
事業効果及び進捗状況	商店街に対する各種支援メニューにより、イベントや販促活動を支援し、商店街の魅力向上を図っている。平成29年度に、商店街内の百貨店が閉店したことを受け、平成30年度には、商店街、商工会議所等が協力し、店舗跡地を活用したイベントを催すなど、エリアの活性化に取り組んだ。同取組みには県、市も支援を行い、官民一体となって賑わいづくりを進めている。 [商店街等に対する各種支援件数]（平成30年度） ・ イベント事業 7件
事業の今後について	引き続き商店街の活性化に向けて事業を継続するとともに、より商店街のニーズに沿った支援ができるよう支援メニューの見直し等を進める。

③. 大手前通り（十二所前線以北）再整備事業（姫路市）

事業実施期間	平成27年度～平成31年度【実施中】
事業概要	姫路駅から姫路城を結ぶ大手前通り（十二所前線以北）を再整備することで、駅からお城までの連続した高質空間を創出する。
国の支援措置名及び支援期間	・ 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（姫路駅周辺地区（第2期）））（国土交通省）平成27～31年度
事業効果及び進捗状況	当該事業のうち南工区（十二所線以北～国道2号線）については、平成30年9月に工事が完了し、歩行者に優しい環境空間となり、歩行者の回遊性向上に寄与している。北工区（国道2号線以北）についても、平成31年度末の事業完了に向け引き続き工事を進めている。 また、南工区の工事完了後、歩道空間の利活用に向け、平成30年度から利活用の仕組みづくりについて、民間のノウハウを活かしながら官民一体となって取り組んでいる。平成30年度には社会実験として、歩道空間を活用したイベントを4件実施した。

事業の今後について

現在、工事中の北工区について、平成31年度末の事業完了に向け引き続き工事を進めるとともに、利活用についても、沿道の関係者等と連携し、民間を主体とする自立的で持続可能な利活用マネジメントの仕組みづくりや街なかの回遊性向上に向けた取組みを推し進めていく。

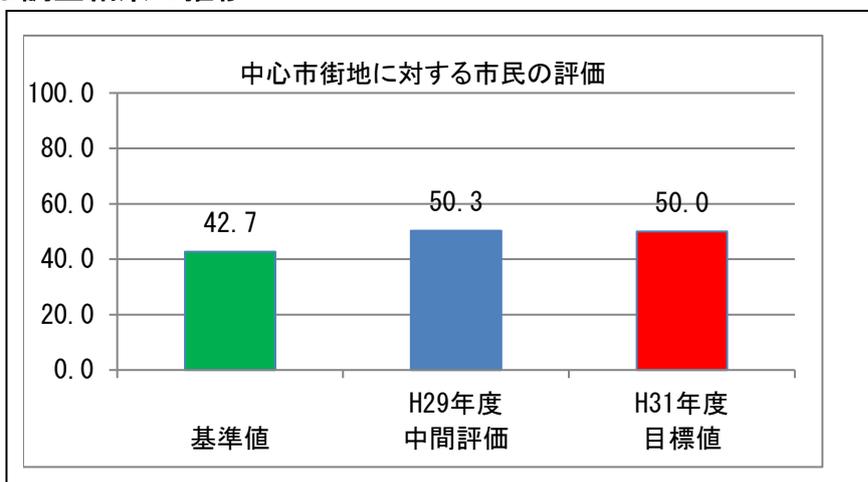
●目標達成の見通し及び今後の対策

「公共空間利活用のルールのもとで行われるイベント実施日数」については、姫路駅北駅前広場の利活用が定着し、週末だけではなく平日においても、音楽ライブや物産展など、多彩なイベントが行われている。また、商店街においては、季節に合わせたイベントやイルミネーションなど従来からのイベントの他、閉店した百貨店跡地を活用した新しい賑わいづくりを様々な主体が連携して行う新しい取組みも始まっている。姫路駅北駅前広場等で、安定した高い稼働率を示しており、目標達成は可能だと思われる。

今後も、駅前広場を核として、街なかの賑わい創出と回遊性の向上及び滞在時間の増加を目指すとともに、エリアマネジメントの運営に向けた組織・人材育成を戦略的に進めるべく、大手前通りにおける利活用マネジメントの仕組みづくりを推進し、中心市街地活性化協議会をはじめ、街なかの関係者と引き続き協議していきたい。

「中心市街地に対する市民の評価」※目標設定の考え方基本計画 P89～P90 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H26	42.7% (基準年値)
H29	50.3% (中間評価)
H31	50.0% (目標値)

※調査方法：市内在住の20歳以上の者から、無作為抽出した対象者に郵送方式によりアンケート調査を実施

※調査期間：平成29年8月21日から平成29年9月4日まで

※調査主体：姫路市

※調査対象：3,000人（中心市街地内居住者1,500人、中心市街地外居住者1,500人）

●目標達成の見通し及び今後の対策

「中心市街地に対する市民の評価」については、補完指標として、中間年及び最終年

において評価を実施することとしており、平成 30 年度は調査を実施していない。

なお、平成 29 年度に実施した調査（中間評価）においては、調査対象者 3,000 人に対して、有効回答は 1,113 人であり 37.1%の回答率であった。結果として、満足していると回答した割合は 50.3%であり、目標値を上回った。中心市街地内の居住者だけでみれば、6 割近くが「満足している」又は「どちらかという満足している」と回答している一方、中心市街地外の居住者からは、4 割程度にとどまるとともに、「どちらともいえない」という回答が 3 割を超え、大きな割合を占めた。

今後も、計画に記載の事業を着実に推進し、中心市街地内の居住者だけでなく、市民から更なる評価が得られる街なかを目指し、取り組んでいきたい。